



広報 なかわだ

第 341 号

1 月の予定

主の公現	1 月 6 日
委員会	1 月 6 日
主の洗礼	1 月 13 日
ヨゼフ会例会	1 月 20 日
信徒大会	1 月 26 日



2008 年 1 月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1

Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成 20 年 1 月 6 日



たえず よろこべ

主任司祭 小林 陽一



新春の御喜びを謹んで申し上げます。

2008 年を迎え、様々な出来事がありました。2007 年を無事おくる事が出来、皆様にごことより感謝申し上げます。

「絶えず喜べ、絶えず祈れ、どんなことにも感謝せよ」(I テサロニケ・5 章 16 節)。この聖書の言葉は、深い意味があり、声を出さずに何度もくりかえして言っておりますと、新しい味わいがわいてまいります。自分に与えられているものに感謝できるとき、人は幸せです。感謝は神への賛美と重なって、霊的な喜びをいただけたと思います。中和田教会がこれまでに与えられたものはたくさんありますが、これらのものに感謝し、感謝の祈りを致しましょう。中和田教会の共同体づくりが、少しずつ育っております。12 月 15 日、中和田教会の黙想会(共同回心式)の講話をなさった新司祭、濱田神父様が、「司祭叙階式以来、教区内の 58 の教会をまわりました。中和田教会は幼稚園、小学生、中高生の若い子ども達が多いですね」とおっしゃっておられました。小学生、中学生は、部活が忙しくて、なかなか教会には見えないのですが、小生も、「中和田教会は若い人たちがよく教会に見えており、教会の中で楽しそう」と思っております。ご家族や教会の皆さんのご協力、若い人たちを見守る教会の皆さんのまなざしが温かいからだ、と思います。平日、これまでの、金曜日・午前 10 時からのレジオの集会、キリスト教入門講座(月 2 回)の他に水曜日・午前 10 時からの聖書の分かち合いのクラス、小中学生の個人の要理クラスが昨年度末から始まりました。

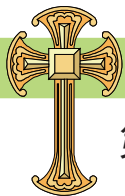
「主にあって絶えず喜べ。どんなことにも感謝せよ」という教えは、知らず知らずに、人の心に伝わります。水曜日の聖書の分かち合いのクラスや小中学生の個人の要理クラス開講を感謝しております。

本年もよろしくお願い申し上げます。



主の降誕深夜ミサ
(2007. 12. 24)





「心うつその一言を探し求めて」

第16回湘南短期キリスト教セミナーにそれを尋ねる（その1）

竹内 広治

今年の湘南短期キリスト教セミナーは、11月10日土曜日の午後、片瀬教会の聖堂で開催されました。今までのセミナーは、2日ないし3日のシリーズの日程で、開催されましたが今回は一日に限定し、内容も濃密にしてバラエティーに富ませ、ひとひねり工夫したセミナーにしたいと、主催者は考えたようです。

従来から回を重ねるたび、その規模は拡大一途を辿る訳で、そのため企画運営からすべて、大変なご苦労があったようです。

たまには、こじんまりアットホームな雰囲気で開催セミナーも、初心に帰るような懐かしさを感じるのは、私一人では無いと思うのですがね。

当日は生憎の小雨模様でしたが、それでも思ったより参加者の出足は好調で、会場では補助椅子を抱えた役員さんたちが、忙し忙しでお働きご苦労様ですね。

第16回を数える今年のセミナーのテーマは、「ともに生きる喜び、愛の分かち合い」先ずはじめは、私たちの生々しい記憶にある、愛の形を語り悟らせた実践者、マザー・テレサとの交わりと、カルカットでの奉仕を「マザーテレサの愛の詩」と題して、片瀬教会所属の歌手、新谷のり子さんが力強く語られました。敬愛するマザーと何回か接するうちに、その手の大きさに初めて気づき驚いたこと、その大きな掌に握られ包まれたら、どんなに幸せなことだろうか、しみじみ述懐されました。

ところで私にとっての新谷のり子の場合は、あの不幸なベトナム戦争の時代にあっても私のアイドルであり、新鮮な反戦の一方の旗手であったのです。あれから何年の月日、いま彼女は世界の悲惨な様々を、語り歌いそして訴えている。一回りも二回りも大きくなった姿に、我が身は如何にと恥ずかしながら自問しても、残念乍ら答える声はありません。

続いて登場された方は、感銘とどよめきのなか降壇された新谷さんと、同窓とも言える片瀬教会出身、（援助修道会会員）の山本きくよ先生。ご専門の歌を交えてトークで私たちに語りかけます。祈りを通しての気づきを歌にすること14年と紹介されました。過去のセミナーでは経験したことが無い音楽の出現。これは新機軸だと思いましたが、流石だなと参加者を思わず喰らせる、透明な声がクラシックな聖堂に響いて、例えようも無い幸せな一時が流れました。「愛するために」をタイトルに、「愛するために」そして「イエスの恋文」「一人発ちの歌」と続けました。この歌はセミナーの最終にも歌われ、参加者一同もその歌の環のなかに入っておりまして。今回のセミナーの構成も、全体的な効果は素晴らしいの一言に尽きましたね。

締めくくりの講演は「カンボジアと共に、生き生かされて27年」カトリック神言会司祭の後藤文雄師のお話と紹介され、経歴やら主題のカンボジアとの関わり、名誉ある毎日国際交流賞受賞にいたる案内などのあと、いよいよ後藤神父様のご登場となります。

12月15日（土）に濱田壮久神父様を指導司祭にお迎えして赦しの秘跡・共同回心式が、行われ、また翌日の16日（日）には、濱田神父様の中和田教会での初司式でミサ（子どものためのミサ）が行われました。





『秋期典礼研修会』に参加して

岩 渕 洋 子

去る10月14日、磯子カトリック教会にて「主をたたえ歌おう」というテーマで研修会が開かれました。典礼委員長の竹内さんより「是非出席して勉強してきてください」との事。私は中和田教会の詩編担当者としてその責任をしっかりと受け止め、初めて研修会なるものに出席いたしました。このようなテーマが研修会で取り上げられるのは初めてだったので、非常に人気が高く、会場の聖堂の中は予定数70名をはるかに越える参加者で一杯でした。各教会4名までとのことで、小林神父様、宮崎さん、井上さん、私が参加致しました。

開会につづき全員で典礼聖歌を歌ったのですが、その歌声は大変素晴らしく、聖堂の隅々まで響き渡り、これから聖歌についての学ぶのだという意気込みが感じられました。

まず始めの久我神父様の「主日のミサにおける聖歌の役割」という講話では、次のようなことがお話しされました。集いの中で私達は主に出会い、みことばの中に主が生きておられることを実感する。そして歌で表現することでより豊かになる。ミサの各部で歌われる聖歌にはそれぞれに目的と特徴がある。例えばあわれみの賛歌は回心を促す歌であり、主キリストにあわれみを願うと共に、あわれみ深い主をたたえる為に歌います。また感謝の賛歌は叙唱に対する会衆の応答の為の歌であり、すべての天使と諸聖人とともに聖なる神をたたえて会衆が歌うというように。聖歌は祈りであって、歌うことによって神に賛美と感謝の祈りを捧げるのですが、聖歌奉仕者は会衆の一人であって、共に祈り、歌うことを心がけなければならない。私達は主日のミサのテーマが何であるかをよく知り、もっと積極的に参加しなければならないのです。

次の鈴木真神父様の「答唱詩編の意味とその歌い方」という講話では実際に神父様が答唱詩編を歌ってお手本を示してくださいました。神父様の声は大きくてよく響き、ことばがはっきりと聞き取れました。答唱詩編とは神のことばを味わい、黙想するための歌です。詩編唱者が詩編を歌い、会衆が答唱句を歌って神のことばに応えます。そこでは心をつにして人々を黙想へと、また祈りへと導かなければならないのです。詩編は朗読台、またはふさわしい場所で歌います。実際に歌うときの注意としてノンビブラート（声を細かくふるわせない歌い方）でさらっと歌うのが原則とのことです。とかく思入れが強くなり伸ばしがちですが、あくまでことばを大切にわかりやすく歌うことが望まれます。詩編唱者は一人でも数人で歌っても良いそうなので、当教会も一人でも多くの詩編唱者が増えてくれれば良いなと思いました。

その後休憩をはさみ、グループの話し合いが行われました。私のグループの中には遠く浜松や静岡から参加された方もいらっしゃいました。それぞれの教会の聖歌隊の実情、指揮者のあり方、ミサでの聖歌の選曲や歌い方など活発な意見交換がなされました。ある教会ではミサの前、30分～1時間ほど聖歌隊を中心に聖歌の練習をするというのを聞き、驚きと共にその熱心さに感心させられました。

あっという間の3時間でしたが、実り多い一時でした。今まで何気なく歌っていたミサの聖歌ももっと真剣に心を込めて取り組み、これを機会にスローテンポになりがちな歌をもっと生き生きと歌えるよう意識を新たにしていかなければいけないと痛感致しました。

24日の主の降誕深夜ミサ後、恒例となった子どもたちによる聖劇と祝賀会が開催され、参加者一同喜びを分かち合いました。



委員会だより

△12月2日(日) 9名出席

■小林主任司祭あいさつ

*07年の一年間「ご苦労様でした、そしてありがとうございました」。

*11月25日6名の小学生が、両形食で初聖体を授かりました。祝賀会では教会全員に祝福されました。皆様のご協力に感謝します。来年度は更に良いものにしていきます。ご協力お願いします。

*12月15日(土)共同回心式に濱田司祭が、指導司祭として来られる。講話は「召し出しと信者のあり方」。16日には濱田司祭による初ミサと懇親会を予定しています。
*「聖書のわかちあい」は11月14日より、水曜日am10時にスタート。新年は1月9日より開催します。

報告・審議事項

☆報告事項

a.第五地区共同宣教司牧委員会報告
委員長より「祈る力を育てる部門」「信仰を伝える力を育てる部門」第一回会合を報告。詳細は、信徒大会・広報等でお話しすることとなった。

☆審議事項

a.行事予定

*15日黙想会・共同改心式、16日濱田司祭初ミサ・ミサ後パーティー
*24日降誕祭前夜ミサ・ミサ後パーティー、25日降誕祭ミサ
*1月1日神の母聖マリア祭日・後賀詞交歓会、1月27日信徒大会
《委員会結論》ミサ後のパーティー等は、小林神父様の「共同体の輪(和)を大事にしたい」とのご指導と、「社会通念」に合わせ『酒類』は出さないことにした。

b.2007年度予算進捗状況

*一般会計△収入の部△月定献金・ミサ献金は計画通り協力頂いてい

る。△支出の部△「教育養成費」「祭具備品費」の進捗が遅れている。《委員会意見》各グループとも最終確認をお願いします。

*建設会計△収入の部△月定献金は計画どおり協力頂いている。△支出の部△優先順位を考慮して「建物修繕計画」を検討している。まとまり次第計画を進める。

*愛の献金会計△収入の部△愛の月定献金のほか、特別献金もあった。△支出の部△【教区指定】「児童福祉の日」・「四旬節愛の献金」・「広報の日」・「聖ペトロ使徒座」・「世界難民移動の日」は予定通り献金されている。7月16日新潟中越沖地震義援金は、皆様から臨時献金を頂いた。《委員会意見》地区福祉活動として「泉区福祉協議会」にも献金することとした。

c.2008年度予算

*財務グループは、08年度予算に對する各グループの希望をお聞きし、予算を作成し次回提案する。

d.2008年度行事計画

*事務グループより年間行事計画案が出され、次回、各グループの確認後決定される。

■各グループ連絡・報告事項

a.営繕G.. 聖堂床下防犯対策・新集会室エアコン・水道設備等の見積が出た。優先順位等検討中。

b.典礼G.. 11月・12月典礼行事報告があり、詳細は、掲示板等を使いお知らせして行く。08年度「ミサ典礼奉仕者」の書き込み受付中、まとまり次第発表する。08年度予算は07年度予算と同額を希望。

c.行事G.. バザーの反省会で、左記反省点が出たので、来年度対応。

- 1.マンネリ化している面がある。
- 2.時代にあったものに改善したい。
- 3.会場の案内図が欲しい(店・販

売品等

4.狭い会場に車が入ってくる。

5.焼き鳥等食券が残った。

d.宣教G.. 要理学校は08年新リダーを中心に活動する。皆様の協力をお願いします。

e.福祉G.. 08年1月20日実施の「第五地区・近隣教会福祉懇談会」に参加し他教会の活動等学んで来る。

f.事務G.. 今年のバザー開催日は第五地区で10月28日に集中。「来年度は重複を避けたい」との意見もあるが、他教会訪問も容易でなく、準備の中で考慮することとした。
《神父様のご指導》他教会への開催通知には、必ず招待状を付けて、相手が来やすくしてほしい。

07年12月委員会後記 小野委員長

新年明けましておめでとうございます。旧年中は皆様の多大なご尽力とご協力を頂き、恙無く教会年度計画を終えることが出来ました。有難うございました。心より感謝申し上げます。本年も多くの課題を抱えながらのスタートですが、小林陽一神父様を中心とした教会運営の一層の活性化に注力していく所存です。各位の変わらぬご支援とご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。



12月15日(土)に赦しの秘跡・共同回心式が、旧年5月3日に司祭叙階された濱田壮久神父様を指導司祭にお迎えして行われ、また翌日の16日(日)には、濱田神父様の中和田教会での初司式でミサ(子どものためのミサ)が行われました。皆様ご承知の通り、濱田神

お知らせ

転入

二俣川教会より
富樫 ぬい子さん
ヨゼフ 祐也さん
ペトロ 達也さん
和泉町在住

洗礼

2007. 12. 8
マリア 石田 トモさん
(12.13 帰天)



父様は一昨年の8月6日に中和田教会で行われた『一粒会、神学生、第五地区のこどもたちの交流会』の折にも来訪されており、中和田教会に馴染みの深い神父様です。ミサ終了後には、濱田神父様を囲んだ懇談会が大勢の子どもたちの参加のもとに楽しく、そして盛大に行われ、有意義なひと時を過ごしました。濱田神父様、そして小林神父様はじめ準備にご尽力頂いた方々に心より御礼申し上げます。
12月24日と25日にご降誕ミサが捧げられました。24日には、恒例となつた子どもたちによる聖劇、加えてご降誕祝賀会も開催され、参加者一同喜びを分かち合いました。私たちはこの喜びを、ご病気などでミサに参加出来なかつた多くの方々と分か合いたいと念じております。神様のご加護が全ての人々の上に在りますように、そして困難を克服する力と希望と勇気をお与え下さいますように。